

CONCERTO

第37号

地域医療連携推進室からのお知らせ

●開放型病床カンファレンス開催スケジュール●

日時	内容	講師・演題
平成27年2月26日(木) 19:30~20:30	開放型病床 カンファレンス	症例検討 / 消化器内科 赤澤 悠 ミニレクチャー / 外科医長 宮永 太門 食道がんの診断と治療 最近の話題

開放型病床カンファレンスへの参加をお待ちしております。

地域医療支援病院の承認要件の一つに、「地域の医療従事者の方に対する研修会の実施」があります。これを受け当院では、開放型病床カンファレンスを、毎月第4木曜日の午後7時30分から8時30分の時間帯で開催しています。(ただし8月、11月、3月を除く)

内容は、多種多様で、院外から先生方はもとより看護師さん、コメディカルの方など多くの方に参加をいただいております。

また、「診療を終えてから参加するには開始時間が早過ぎる」とのご指摘を受け、昨年6月から開始時間を30分繰り下げ午後7時30分からとしました。(終了時間は変わらず)

さらに遠方の方にも参加していただけるよう、平成25年度からは各地区に出向いて行う「出前講座」を、年に1回開催しております。この出前講座については、地元医師会様にご協力をいただき、事前に演題、内容のご要望をお伺いしたうえで実施し、非常に多くの方々に参加いただいております。

これらの研修会の他にも、地域医療連携医交流会での大規模な講演会をはじめ歯科講演会を開催しております。

今年度も、これまでこれら研修会に院外から延べ300名の方に参加いただきました。お忙しい中、大変有難うございました。

これからも研修方法の改善と内容の一層の充実を図ってまいりますので、どうかよろしくお願いたします。



<平成27年1月22日の開放型病床カンファレンス 3F講堂にて>

福井県立病院 地域医療連携推進室

TEL/(0776)57-2900
FAX/(0776)57-2901※
受付時間/8:30~18:00
月~金(祝祭日を除く)

※上記のFAXについては、時間外・土・日曜日および祝日は救命救急センターへ切り替わります。

緊急の場合は救命救急センターへ お願いします。 救命救急センター

TEL/(0776)57-2990
FAX/(0776)57-2991



健康長壽の福井
福井県

新聞やテレビで、県の情報をキャッチ!

- 新聞 「県からのお知らせ」(毎月1日、15日に掲載)
- テレビ番組 「おはようふくいセブン」(FBC/日曜)
- // 「ほっとふくい」(ftb/1・3土曜)
- // 「まちかど県政」(FBC, ftb/日曜)
- 広報誌 「県政広報ふくい」(年6回発行)

※ラジオやインターネットでも提供中。
問い合わせ: 県広報課 TEL / 0776-20-0220

福井県立病院 理念 私たちは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

〒910-8526 福井市四ツ井2丁目 8-1 <http://info.pref.fukui.jp/imu/fph/>

ご挨拶 ~思いやる心を胸に~



看護部長
林 宏美

機関紙「コンチェルト」第37号の発行に当たり、ご挨拶の機会をいただきました看護部長の林と申します。連携医の先生方、看護・介護部門の方々にはいつもお世話になり、心から感謝申し上げます。

当院看護部は4年前から「地域医療・看護連携」に積極的に取り組み始めました。「病床管理部会」を設置し、ジェネラリストナースがつなぐ退院支援・退院調整として活動を開始しました。

平成24年4月、地域医療連携推進室に専従の退院調整看護師が配属され、病床管理部会と協働して、「顔が見える」地域医療・看護連携に意欲的に取り組んでまいりました。現在では、退院支援・退院調整に対するジェネラリストナースの意識は大いに向上し、地域の先生方等のご参加を得た退院前カンファレンスも行われるようになりました。患者さんが、どこで、誰と、どのように過ごしたいかを念頭に置きながら、多職種がチームで関わるスタイルが定着しつつあることを、大変喜ばしく感じています。

平成26年4月には入退院支援室が開設され、専従の看護師を1名配置しました。退院支援・退院調整は外来から始まるという考えに

基づき、入院申し込みの早期の段階から患者さんやご家族から情報を聞き取り、退院支援・退院調整の必要性をアセスメントしています。

外来~病棟~地域へとつないだ事例を発表する場として、地域医療・看護連携「交流会」が平成24年3月に初めて院内で開催されました。年2回のペースで回を重ね、連携した病院や施設の方々のご参加もいただくようになり、積極的な意見交換が行われています。お忙しい中、交流会にご参加いただいた皆様にお礼申し上げます。

連携の先生方からご紹介いただいた患者さんを、「思いやる心」を基本姿勢として、大切に看護させていただきます。県で唯一の急性期総合病院としての使命を胸に抱きながら、地域の皆様に信頼される、心あたたまる病院・看護を目指してまいりますので、今後とも何卒よろしくご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。



◆額: 思いやる心
笠 廣舟 書



◆正月の花
岩城 君代 作

地域医療連携医として～“ありがとう”の気持ちを大切に～



高木北クリニック
河合 隆寛

循環器の専門病院を退職し開業したのは平成20年4月でした。小児心臓外科医だった事もあり、今では乳児から100歳を越える方まで対象年齢は幅広く、健診から予防接種、産業医の業務を含め「在宅医療」についても積極的に取り組んでいます。幸い勤務医の頃より専門外の患者様を診る機会が多く、開業後も循環器・呼吸器疾患以外の最新の診断技術から治療方針まで習得する必要を感じ、従って「開放型病床カンファレンス」は毎回興味深く拝聴し良い勉強になっています。さらに県立病院は比較的近いため紹介させて頂く事が多いのですが、逆紹介もあり先生方には大変感謝しています。

内科医は元来、総合診療が基本で種々の訴えをする患者様を診なければなりません。精神疾患はもとより大腿部痛から血液検査で偶然「白血病」が判明したり、白血球増多で来院した10

代の女性が「妊娠」していたなど特例を挙げれば枚挙に暇がありません。また超音波検査で先天奇形・弁膜症・心筋症などの心疾患を含め頸部エコーから頸動脈の高度狭窄や頸動脈と冠動脈の合併病変、甲状腺がん、大腸がんのリンパ節転移など様々な経験をすることができました。

病状の重さと苦痛の程度を推し測るためには診察室に入室された際の表情や所作を見逃さない事が肝要です。さらに十分な問診と納得いく説明、患者様と共に診断→治療を進めていく姿勢。そこには互いの信頼関係があつてこそ“ありがとう”の気持ちが大切だと思います。地域に根ざした循環器のサテライト診療所として頑張る所存ですので今後とも御指導の程よろしく願い申し上げます。



◆高木北クリニック(福井市)

移り変わるリハビリテーション



リハビリテーション室
室長
小林 義文

整形外科後療法(運動器リハビリ)として50年前に始まった理学療法・作業療法は、高齢化の進展と救命救急医療の発達による脳卒中や循環器疾患が増えたことで、言語聴覚療法が加わり、脳血管リハビリや心臓リハビリが発展しました。慢性呼吸不全や神経筋疾患に対して呼吸リハビリを実施し、重症患者には、意思伝達装置や特殊車椅子、環境制御装置導入など工学的アプローチを行ないます。平成25年度からは、がん患者リハビリテーションを開始しましたので、その取り組みを紹介いたします。早期退院を目的に、外科系

では周術期の呼吸リハビリに始まり、術後は離床目的にADL指導や歩行練習を、内科系では化学療法や放射線治療後の廃用症候群に対し、NSTと協働しながら筋力・持久力強化を病室から開始します。緩和ケア病棟に転棟した際には、最後までその人らしく生きられるよう症状にあったリハビリを行ないます。がん患者リハビリは、チーム医療により、身体機能と精神的な自信の回復を支援することだと確信しています。

今後、団塊世代の高齢化と更なる医療技術の進歩に伴い、生活の不自由さを抱え生きる人々が増加します。患者・家族に寄り添い、いつまでも安楽に暮らせることを目的に、リハビリ技術だけでなくチームとしての力量を磨くことが現在の課題です。

当院リハビリ委員会では、公開リハビリ研修会を年4回開催しています。連携病院の皆様の参加をお待ちしています。

整形外科のご紹介



整形外科医長
三崎 智範



地域連携医の先生方におかれましては平素より温かいご指導、ご鞭撻を賜り、誠に有難うございます。それでは整形外科の紹介をさせていただきます。

当科の特徴として、まずは当院の救命救急センターの性質上、一次から三次までの外傷患者さんが24時間体制で受診、搬送されることが挙げられます。当科の手術件数を見ても、骨折の手術が半数以上を占めており、特に重症外傷(開放骨折、骨盤骨折、脊椎・脊髄損傷)の患者さんが多いのが特徴です。また、大腿骨頸部骨折においては地域連携クリニカルパスの急性期病院を担当しており、当院で手術後に回復期病院へ転院して頂いてリハビリを継続し、自宅退院後は維持期の医療機関で治療を担当して頂いております。連携医の先生方におかれましては、速やかな転院や継続的な治療をお引き受け頂き、深く感謝申し上げます。

小生は関節外科を担当しておりますが、特に人工股関節置換術については、平成20年から筋肉や腱を切離さない前方法を北陸でも先がけて採用しております。脱臼率の低下は勿論、入院期間の短縮や早期の社会復帰が可能な優れた方法であり、少しずつ紹介患者さんも増えてきています。

また、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症といった腰椎疾患に対しては、脊椎担当の上田が内視鏡下手術を行っております(写真)。患者さんへの侵襲、術後の疼痛、ADLの早期改善といった点で優れた方法であり、引き続き連携医の先生方からのご紹介をお願い致します。

当科ではその他にも骨軟部腫瘍と足の外科を専門とする林、手の外科を専門とする石黒がそれぞれ専門性の高い診療、手術を行っております。初診・紹介は1診医師が担当しておりますので、曜日をご確認の上、お気軽にご紹介頂ければ幸いです。



◆内視鏡下椎間板切除術



◆上段左から、林医長、三崎医長、上田医長
下段左から、石黒医長、岩永医師、中西副医長